



(左)「Luminaire by Siki」人気のランタンはオリジナルアイデア。シルクは色あせにくく、いつまでも美しい色合い。(中央)ウールに染色をする。短時間で作業するのがコツ。(右)シルクのトップとスカート。オリジナルデザインで1サイズ。でも、どんなサイズの人にも不思議にぴったり。



自然とともに生活する

CANADIAN NATURAL LIFE STYLE



(上) 紬の作業をしながら、いろいろなアイデアを考える。(下) 夫のサブローさんと「Wild Rose B&B」のエントランスで。ジャズのサックス奏者でもある彼は、時々、バンクーバーまでジャズのライブ演奏をしに出かける。お互い相手のアート活動を尊重し合っ

「いいところでしょう?」ここに車をとめてちよっと歩くけど鍵はかけなくていいわ。だって、盗みをする人なんてここにはいないからね。大人の女性の風貌に、童女のような笑顔が浮かんだ。スイキー・マクアイヴァー・ムラタさんは、このガブリオラ・アイランドで夫のサブローさんとB&Bを運営しながら、アーティストとして活動中。今日は、年に一度の島民の日で、フェスティバルが開催されている。あいにくのお天気だが、皆の顔は楽しさでいっぱい。アットホームなパレードには、なんと島の消防士達も参加している。「この島に、警察官は3人。消防士はたった1人。それ以外はすべてボランティアで運営されている。それだけこの島には、そういう人たちの出番が少ないってことなのよ」とスイキーさん。

パレード終盤には、夫のサブローさんも登場する予定なのだという。ほどなくして、サックスの温かくてちよっと物憂げな音が遠くから聞こえてきた。釣りが三度の飯より大好きで、ジャズのサックス奏者として

も活躍中のサブローさんは、スイキーさんの顔を認めると、ちよっとはにかんだように笑って目で合図を送ってきた。

6年間日本で英語教師をしていたスイキーさんは、友人を通してサブローさんと出会い、一目惚れ。ハーブや音楽が好きなことでたちまち意気投合。出会いから3年後のパレインタインデーに、日本で結婚式を挙げた。2人で話し合った結果、オーガニックな食料を自給し、自然と一体となったライフスタイルを目指そうと考えた末、たどり着いたのはこの島だった。



B&B オーナー/アーティスト ナチュラリスト Siki Mcivor Murata

ブリティッシュコロンビア州出身。日本で6年間英語教師を経験。その間、現在の夫、村田サブロー氏と出会う。2人でガブリオラ・アイランドへ移住。B&Bをオープン。ハーバリスト、フェルトメイキング、陶芸、染色、紬など多彩なナチュラリスト。人気のオリジナルキャンドル「Luminaire by Siki」は、海外からの注文も多い。

□ Data
Wild Rose B & B

バンクーバー空港からナナイモ空港へ。その後フェリーで約15分の小さな島、ガブリオラ島で、今回登場のSikiさんとサブローさんが暮らしています。かわいらしいB&Bも経営されていて、ホームステイ感覚で滞在ができます。サブローさんの趣味の釣りの腕前で捕った新鮮な魚やオイスターを夕食で食べる事もできます!

宿泊料金 / ツインベッドルーム:CS\$70 (2名)
朝食、夕食は別料金
宿泊問合せ先
TEL 又はFAX (1) 250-247-0024 (カナダ国際電話なので時差にご注意の上お電話下さい。日本語OK)
e-mail sikisab@shaw.ca
HP <http://members.shaw.ca/sikisab/index.html>

ガブリオラ・アイランドに魅せられて 本当の自分と向き合って暮らす



2人きりでゆっくりと過ごす時間も大切にする。言いたいことを言い合うことも大事だけど、時には忍耐することも、よき友人でいるための秘訣。とスイキーさん。



長旅の終着点はこちら。自然光がたっぷり入る部屋で、癒しの日々をどうぞ。窓からはハーブ園が見渡せ、季節によってはバードウォッチングも楽しめる。お風呂は露天風呂。

「Quality of Life」を第一に考えたライフスタイルを

バックヤードには、ローズマリー、セージ、ラベンダー、エキネシアといったカナダでおなじみのハーブにまじって、日本のシソ、三つ葉などもある。自然にまかせて育てている分、力強くたくましい。ハーブ園を作る傍らスイキーさんは、フェルトメイキング、陶芸、染色、紬として人気のオリジナルキャンドルの制作にも忙しい。

「学校のリセス(休み時間)にはプラスチック(プラスチック粘土)遊びを何時間でもやっているような子供だったわ」と振り返るスイキーさんだが、アーティストとして本格的に制作活動を開始したのは8年前。日本での仕事はそれなりに楽しかったが、自分らしさを発見することはできなかったそう。ある日、オリジナルアイデアのシルクとワックスを使って作ったキャンドルを友人にプレゼントしたところ、「こんな素敵なものを作れるのに、どうしてビジ

ネスにしないの?」と言われ、一念発起、「Luminaire by Siki」が誕生した。

「日本にいたときの方が経済面ではとてもよかったですね。でも、お金より、『Quality of Life』を大事にしたいと考えたんです。仕事は生活や人生を豊かにするためにする

もの、という考え方が基本のカナダでは、実にさまざまなライフスタイルがある。昼近く、サブローさんはスーパへは行かず、海へ直行。今日のランチは、グリルで焼いた今とってきたばかりの牡蠣やサーモン、海老のお刺身。それに、同じくバックヤードの菜園からとってきた、き

ゆったりとシソの浅漬けなどが並んだ。自給自足の田舎ならではの本質的な豪華さがテーブルからこぼれそだた。「人と人のつながりを大切に。これからも自分らしい自分でいられるよう、ここで暮らしていきたいですね。」

